

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：13401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26780354

研究課題名(和文) 教師の不安受容と挑戦意欲を支える個人要因と組織要因の統合メカニズムの解明

研究課題名(英文) Integrated mechanism of individual and organizational factors which support teachers to accept their anxiety and encourage them to take on challenging brand-new teaching

研究代表者

木村 優 (Kimura, Yuu)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成・院)・准教授

研究者番号：40589313

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、教師の不安受容と挑戦意欲を支える個人要因と組織要因の統合メカニズムに関する知見を導出することであった。学校実地調査により得られた知見として、(1)授業の不確実性から生じる多種多様な情動が教師の授業改善と即興的思考の展開を支える、(2)教えと生徒に関する見識、学校組織としての専門職の学び合うコミュニティとコミュニティ・スクールはそれぞれ独立変数として教師の不安生起の原因と同時に挑戦意欲喚起の誘因になる、(3)教師の不安受容と挑戦意欲を支える学校は専門職の学び合うコミュニティを培い、地域との協働連携によりコミュニティ・スクールを構築発展する、の3知見が主に導出された。

研究成果の概要(英文)：This study examined integrated mechanism of individual and organizational factors which support teachers to accept their anxiety and encourage them to take on challenging brand-new teaching. The following results were found. First, several emotions rooted in uncertainty of teaching support teachers' improvement of the lesson and impromptu thinking. Second, wisdoms of teaching, wisdoms of students' learning, Professional Learning Communities and Community Schools are the key factors of arising an anxiety of teachers and of challenging to bland new teaching. Third, schools that facilitate professional development of teachers are cultivating Professional Learning Communities and Community Schools.

研究分野：教育心理学

キーワード：教師の情動 不安 情動実践 専門職の学び合うコミュニティ 学校組織 新たな学び 挑戦

1. 研究開始当初の背景

教師のメンタルヘルス悪化が社会問題として指摘されて久しい中、教師の情動に関する先行研究では、「業務量増加や業務の質の困難化」による教師の情動と意欲への影響が検討されてきた。例えば、職務多忙化や説明責任増大による授業準備時間不足、生徒と係わる時間不足が教師に不満や罪悪感を生じさせ、メンタルヘルス悪化と職務意欲の減退を導く。また、役割複線化による葛藤、同僚・保護者に対する不満、生徒指導上の悩みが教師のストレス要因であり、その予防策・防止策に教師個人及び学校全体のメンタルケアが提案されてきた。

しかし、以上の研究成果にも関わらず、教師の多忙感は依然高く、精神疾患による休職者数も悪化傾向にあった(文部科学省, 2013)。これは、先行研究が、A.教師一般の情動の特質やストレス要因を析出する目的から学校生活全般に渡る教師の情動を分析してきたため、教職員の業務の中核をなす「授業」に分析の焦点を絞っていない、B.あらゆる学校で実施可能な教師のストレス予防策・防止策を導出するために学校を静的に一般化して捉え、教職員の移動や生徒指導上の問題発生等による学校組織の力動的変化に関する教育心理学的な知見を教師の情動の分析に統合していない、の2課題を残していたためであった。

2. 研究の目的

以上の課題に基づき、申請者はこれまでの研究により、学校現場での実地調査に基づき以下3点の解決すべき研究課題を同定した。第1は、教師が情動を媒介に即興的思考を展開し授業改善を行う過程を実証する課題、第2は、教師が授業の不確実性からいかなる不安を経験し、対処しているのかを明らかにする課題、そして第3は、教師個人レベルに留まらず、教師の不安受容と挑戦意欲を支える学校組織の在り方を理論化する課題、である。

これらの研究課題を踏まえ、教師のメンタルヘルス維持・向上に資する個人レベルと学校組織レベルの統合的知見を導出することを本研究課題全体の目的に措定し、

- ① 情動を媒介とした教師の即興的思考の展開と授業改善過程
- ② 教師の不安の内実と対処方略
- ③ 教師の不安受容と挑戦意欲を支える学校組織

以上の3側面の研究を発展的に実施した。

3. 研究の方法

研究① 情動が教師の即興的思考の展開と授業改善過程に及ぼす影響を検討することを目的に、申請者と中学校教師1名で実践を協働で診断しながら授業改善過程を描出して

く共同生成的アクション・リサーチを実施し、

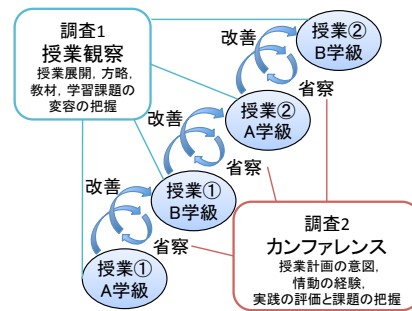


図1 調査1と調査2の構造図

以下の2調査を同時に実施した(図1)。

調査1 授業変容と授業改善を捉える観察
課題：授業実践の変容・改善過程を把握。

方法：教師が2学級で連続して行う同一単元授業(授業4回×2学級を想定)を観察し、各授業の展開、授業形態、授業方略、教材や学習課題の相違点を分析。

調査2 情動に焦点化した実践省察

課題：教師の授業中の判断と授業改善案の構想に係わる情動の経験を把握。

方法：各観察授業直後、教師に、(1)授業計画の意図、(2)情動の経験、(3)実践の評価と課題、の3点を主に聴き取りながら、次の授業に向けた改善を協働で図る省察カンファレンスを実施。

研究② 教師の不安の内実と対処方略との関連性を示す現象モデルを生成することを目的に、中学校教師20名を対象に面接調査を実施した。

方法：(1)授業に係わる不安内容、(2)その不安への意味づけと対処方略、(3)不安受容や緩和の条件、の3項目を基軸に半構造化面接を行う。この面接で研究①のデータを活用し教師の不安内容と対処方略を豊かに導出する。データ収集と分析は「グラウンデッド・セオリー・アプローチ」に基づき交互に行い、現象モデルを生成する。

研究③ 教師の不安受容と挑戦意欲を支える力動的な学校組織モデルを構築することを目的として、研究②のデータから教師の挑戦意欲を喚起する学校を複数抽出し(約5校)、各学校の組織・研究体制の特徴、同僚性の形態、教職員の異動や生徒指導上の問題発生等の学校の変化に応じた組織的取組、これら学校組織全般に対する教師・管理職の認識を明らかにする組織分析を行う。

方法：まず、学校の教育理念を示すスクールプランや年間計画、学校の研究体制や教師の実践を記録した紀要等を一次資料として収集し、教師の不安受容と挑戦意欲を支え促す

学校の組織・研究体制を分析する。次に一次資料の分析に基づき、教師・管理職を対象として、(1)学校の教育理念と自己の教育信念との適合性、(2)同僚関係の内実、(3)学校の変化に応じた教師支援の組織的取組、の3項目を基軸に半構造化面接を実施し、教師の不安受容と挑戦意欲を支える学校の同僚性の形態と力動的変化に応じた組織的取組に対する認識を分析する。

研究③の結果から、各学校に共通する組織・研究体制と同僚性の特徴、それらへの教師の認識が明らかとなり、教師の不安受容と挑戦意欲を支える力動的な学校組織モデルが構築される。そして、研究①・②の知見を統合することで(図2)、教師の不安受容と挑戦意欲を支える個人要因と組織要因のメカニズムが明らかとなり、教師のメンタルヘルス維持・向上に資する個人レベルと学校組織レベルの統合的知見が導出される。

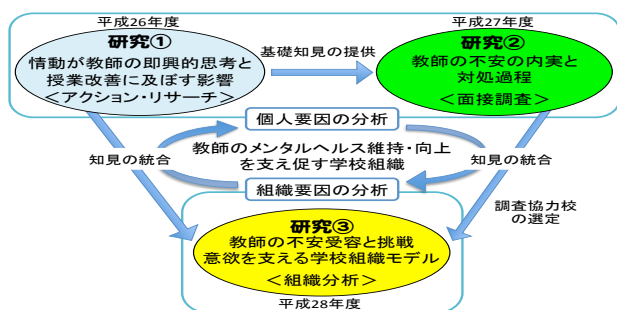


図2 3研究の方法論的関連図

4. 研究成果

本研究の結果、教師の不安受容と挑戦意欲を支える個人要因と組織要因の統合メカニズムの解明を目指し、(1)授業の不確実性から生じる不安や喜びといった多種多様な情動が教師の授業改善と即興的思考の展開を支える、(2)教師の不安カテゴリー〔教えに関する見識〕と〔生徒に関する見識〕、不安対処カテゴリー〔専門職の学び合うコミュニティ〕と〔コミュニティ・スクール〕はそれぞれ独立変数として教師の不安生起の原因と同時に挑戦意欲喚起の誘因になる、(3)教師の不安受容と挑戦意欲を支える学校は生徒の学びを協働で見取る「授業研究」により「専門職の学び合うコミュニティ (Professional Learning Communities, 以下 PLC と表記)」を培い、地域との協働連携により「コミュニティ・スクール」を構築発展する、の3知見が主に導出された。

教師が授業の不確実性から生じる不安や後悔、楽しさや驚きという快／不快情動の二側面で授業改善を図り、即興的思考を展開していることが明らかとなった。そしてこれらの情動を授業後の省察により意識化することで、教師個人レベルとして不安受容に資する勇気と自信が湧き、挑戦意識が喚起されると示唆された。

教師個人レベルの不安コア・カテゴリーとして〔教えに関する見識〕(教材研究, 意思決定)の不足／充実,〔生徒に関する見識〕(生徒理解, 生徒の学びの見取り)の不足／充実が抽出され、不安は教師の挑戦意欲と職務継続意欲に正負両方の影響を及ぼしつつも、授業の不確実性に日々立ち向かう教師の実存的情動であることが明らかとなっている。さらに、教師の不安対処コア・カテゴリーとして〔専門職の学び合うコミュニティ〕(学習する組織, ケアリング・コミュニティ, 情動実践の共有)の存在／構築,〔コミュニティ・スクール〕(保護者からの信任, 地域の学校)の存在／構築が抽出され、教師の不安受容と挑戦意欲を支える学校組織の在り方が現象モデルとして示されている。そして、以上4点のコア・カテゴリーはそれぞれ独立変数であり、教師の不安生起の原因になり同時に挑戦意欲喚起の誘因になることが示唆された。

そして、本研究の事例校では「専門職の学び合うコミュニティを培う」と「コミュニティ・センターとして再構築する」という二つの根本原理で学校運営と校内研修が進められていることが明らかとなった。ある中学校では、多層多重の教師の学習・研修機会を有機的に統合するように各種委員会や部会が組織され、学級経営を基盤に同学年(よこ糸)、異学年(たて糸)、大学や教委等の外部機関(ななめ糸)を「チーム学校」の理念で編み込んでいた。さらに、教師の「授業づくりへの意欲」を高める校内研修として、生徒の学びを協働で見取る「授業研究」と、地域の人々との協働実施による「地域連携部会」を開校当初から継続実施していた。教師の不安受容と挑戦意欲は、同僚と学び合える学校組織と地域との協働連携の二つの相互作用により高められると推察された。

本研究ではさらに、以上の研究成果から国際共同研究が必要となる以下の2課題が明らかとなっている。

第1の課題は、教師の不安受容と挑戦意欲を高める学校組織として示す PLC の卓越性と持続可能性を米国 PLC 学校との比較研究により明らかにすることである。なぜなら、PLC 概念は米国の学校文化に根拠づけられており、本研究で示した PLC との概念整理が必要であり、特に本研究事例校 PLC は米国で一般的に言われる PLC より卓越な組織であると予想されるためである。ただし、米国では近年「力強い PLC」が提唱され、そこでは PLC 持続発展に資する原理も示唆されていることから、本研究事例校の持続可能性を担保する課題も明らかにする必要がある。

第2の課題は、PLC における教師間の情動実践の共有に包摂する教師個人レベルの専門性開発及び学校組織レベルの PLC 発展に資する効果を米国 PLC 学校との比較研究により検証することである。なぜなら、本研究のデータ分析から、PLC における教師間の

情動実践の共有が教師個人の専門性開発と学校組織の同僚性構築や PLC としての取組を高度化すると示唆されるためである。情動実践の共有は教師の不安受容と挑戦意欲を支える学校組織の鍵概念と推察される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

- ① 木村 優 「校内授業研究に包摂する 2 つの力:『専門職の資本』と『専門職の学び合うコミュニティ』を培う」、『教師教育研究』(福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻・紀要), 第 9 号, 19-22, 2016. (査読無)
- ② 木村 優 「21 世紀の知識社会を乗り越える学校と教師」、『教育』, 851 号(2016 年 12 月号), 29-36, かもがわ出版, 2016. (査読無)
- ③ 木村 優 「『専門職の資本』と『専門職の学び合うコミュニティ』を培う授業研究」、『教育 PRO』, 第 46 巻第 7 号, 26-27, 株式会社 ERP, 2016. (査読無)
- ④ 木村 優 「『専門職の資本』を培う」、『教育 PRO』, 第 46 巻第 6 号, 26-27, 株式会社 ERP, 2016. (査読無)
- ⑤ 木村 優 「知識社会を乗り越える学校と教師」、『教育 PRO』, 第 46 巻第 5 号, 26-27, 株式会社 ERP, 2016. (査読無)
- ⑥ 木村 優 「『専門職の学び合うコミュニティ』としての学校の発展過程: 福井市至民中学校との協働研究のあゆみを事例として」、『教師教育研究』(福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻・紀要), 第 8 号, 25-32, 2015. (査読無)
- ⑦ 木村 優 「『教育の国際化』をめぐる」、『指導と評価』, 730 号(平成 27 年 10 月号), 6-9, 日本教育評価研究会, 2015. (査読無)
- ⑧ 木村 優 「高校生をめぐる社会変化とこれからの教育課題」、『生徒とともに』, 第 56 号, 7-10, 福井高教組教育研究会, 2015. (査読無)
- ⑨ 木村 優・森崎岳洋 「福井大学教職大学院における『新たな学び』を展開する『学び続ける』教員の養成と支援: 学部新卒学生の大学院における学修成果と教員採用後の成長過程の追跡」、『教師教育研究』(福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻・紀要), 第 7 号, 215-231, 2014. (査読無)

[学会発表] (計 8 件)

- ① 村瀬公胤・益川弘如・木村 優・坂本篤司・白水 始・秋田喜代美 「PBL における問題同定と理解深化: 生徒はいか

にして問題を“発見”するのか」、『日本教育心理学会第 58 回総会・発表論文集』, 76-77, サポートホール高松, 2016. (査読無)

- ② 木村 優 「教師の意思決定資本を培う授業研究:『専門職の資本』による教師教育の方向定位と実践事例に基づいて」、『日本教育方法学会第 52 回大会・発表要旨』, 149-150, 九州大学, 2016. (査読無)
- ③ 金子 奨・木村 優 「授業研究を基軸とした高等学校における専門家共同体の構築」、『日本教師教育学会第 26 回研究大会・発表要旨集』, 242-243, 帝京大学, 2016. (査読無)
- ④ Kimura, Y “Sharing emotions through lesson study: Cultivating professional capital and professional learning communities of teachers”, *The World Association of Lesson Studies (WALS) International Conference 2016 Abstracts Session 2*, 8-9, United Kingdom, Exeter University, 2016. (査読有)
- ⑤ Chichibu, T., Watanabe, H., & Kimura, Y “Expanding learning community and lesson study in Fukui: Findings from LSIP”, *The World Association of Lesson Studies (WALS) International Conference 2016 Abstracts Session 3*, 35-37, United Kingdom, Exeter University, 2016. (査読有)
- ⑥ Murase, M., Sakamoto, A., Kimura, Y, Lee, C., Tokito, J., & Komura, S. “Lesson studies on project based learning: Documentation and Assessment”, *The World Association of Lesson Studies (WALS) International Conference 2016 Abstracts Session 1*, 6, United Kingdom, Exeter University, 2016. (査読有)
- ⑦ 木村 優 「情動実践の共有: 教師の不安受容と挑戦意欲を高める学校組織の分析」、『日本教育学会第 75 回総会・発表要旨集録』, 326-327, 北海道大学, 2016. (査読無)
- ⑧ 木村 優 「『新たな学び』を展開する『学び続ける』教員の養成: 福井大学教職大学院における学部新卒学生の授業観の変容と成長過程の追跡」、『日本教育心理学会第 57 回総会・発表論文集』, 197, 朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター). 2015. (査読無)

[図書] (計 4 件)

- ① 木村 優 「教師教育とアクティブ・ラーニング」, 日本教育方法学会(編)『アク

ティブ・ラーニングの教育方法学的検討』, 図書文化社, 126-141, 2016. (共著)

- ② 木村 優 『情動の実践としての教師の専門性: 教師が授業中に経験し表出する情動の探究』, 風間書房, 2015. (単著)
- ③ 木村 優・篠原岳司・秋田喜代美 (監訳) 『知識社会の学校と教師: 不安定な時代における教育』, 金子書房, Hargreaves, A. “*Teaching in the Knowledge Society: Education in the Age of Insecurity*”, 2003, New York: Teachers College Press 翻訳, 2015.
- ④ 木村 優 「ドナルド・ショーン」, 上條晴夫 (編) 『教師教育ネットワーク』, さくら社, 188-193, 2015. (共著)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

該当なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村 優 (KIMURA YUU)

福井大学・学術研究院教育人文社会系部門

教員養成領域・准教授

研究者番号: 40589313